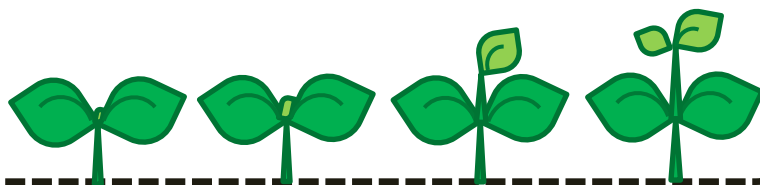


# 市民参加型まちづくり1%システム 事業成果発表会

日 時：平成25年5月25日（土）午後3時  
ところ：市民参画センター グループ活動室

## 次 第

1. 開会
2. 成果発表
3. 総評
4. 挨拶
5. 閉会



【担当】弘前市市民文化スポーツ部  
市民協働政策課 市民協働係

## ▶事業成果発表会予定表

No.	事業名	団体名	開始時刻
開 会			
1	泉野祭り	泉野町会	15:05
2	安全・安心のまち (安全な町づくり推進事業)	北地区コミュニティ会議	15:15
3	常盤野地域カメムシ駆除対策	常盤野町会	15:25
4	市民のための相談会開催と 相談援助者のためのハンドブック作成事業	一般社団法人 権利擁護あおい森ねっと	15:35
5	体験林業(下草刈)と自然観察会事業	岩木山桜会議	15:45
休憩15分(15:55~16:10)			
6	岩木山南麓豪雪まつり	岩木山観光協会	16:10
7	農村女性の技術技能を学ぶ 市民ふれあい交流事業	弘前農村女性起業家 巧みなママねっと	16:20
8	コミュニティシネマ事業 「harappa映画館」+シネマサロン	NPO法人 harappa	16:30
9	HIROSAKIコミュニティミーティング ~わけものビジョン~	公益社団法人弘前青年会議所	16:40
総 評			
閉 会			

事業目的

町会内に交流場所が少なく、委員会やなかよし会なども無いため、これまでなかなか会う機会がなかった地域の住民同士が、顔を合わせて話をし交流を深めるための場をつくる。

事業内容

企画から運営まで地域住民によって行い、住民同士や親子が楽しく交流できるゲームなどを企画することで、予想以上の人が祭りに訪れた。また、当日は多くの住民がボランティアスタッフとして参加し、住民同士の交流が深まり、町会が活気にあふれた。

◆子どもたち向けのゲーム  
(輪投げ・ヨーヨー・射的・落書きボードなど)

◆模擬店

- 事業実施場所: 泉野多目的広場
- 事業実施日: 平成24年9月2日
- 参加者数: 約1,000人
- 補助金確定額: 34,000円(事業費: 582,991円)

事業による効果

参加者が当初予定していたよりも多かったことから、住民が地域に関心を持っていることがわかった。また、多くのスタッフが協力して祭りを開催し、住民同士の距離が近づき、住みよい地域づくりを進める一助となった。

今後の活動展開

多くの住民の要望で、地域住民の交流がたくさんあり、子どもたちだけでなく大人が楽しめるイベントを開催したいという声があったので、このような思いを大切に、1回目以上に参加者が喜ぶような祭りを開催し、まちづくりの力にしていきたい。



手作りのお絵かき用黒板



ゲームも手作り

## 事業目的

社会の様々な動きに伴い、生活様式が多様化したことにより希薄となった地域住民同士の結びつきを強め、住民自らが地域の安全・安心を守る。

## 事業内容

団体内に新たに設置した「安全な町づくり推進委員会」による夜間パトロールや児童生徒の登下校支援を引き続き実施したほか、主要通学路ルート上の110番の家の状況調査や緊急連絡網の立ち上げを行うなど、安全・安心の町づくりのための活動を強化した。

また、北地区工業団地北和会総会で事業についての説明を行い、交流をもつことができたことによって、これからの共同活動への大きな前進となった。

- 事業実施場所: 北小学校区内
- 事業実施期間: 平成24年8月1日～平成25年3月31日
- 参加者数: 604人
- 補助金確定額: 140,000円(事業費: 168,122円)

## 事業による効果

統一されたユニフォームで児童生徒の登校支援・声掛け運動を行うなど、安全が目に見える活動を行うことによって、地域住民だけでなく他地区から出入りする人々にも、この地域が安全であることをアピールすることができた。

## 今後の活動展開

多くの人が働く北和徳工業団地と対話したことによってできた接点を活用し、今年度は地域内の違法物撤去活動や清掃事業などを共同で行う。

ネットワークを充実させ、住民それぞれが安全・安心への意識を高め、地域づくり活動を一緒に続けることができるような委員会活動の強化を行う。



夏休み明けの登校支援



冬休み明けの登校支援

事業目的

近年、町会周辺の自然環境の変化などの影響で、常盤野地区でカメムシが異常発生している。住民各自の対応では限りがあるため、地区で初めてのカメムシ一斉駆除活動を行う。

事業内容

◆一斉駆除作業(11月5日)

町会各地区の役員がリーダーとなり、毎戸で駆除作業を実施し、高齢者の一人暮らし世帯や、障がい者等の要援護者世帯は町会の地区役員が作業を行った。

その後も、カメムシの発生を見計らって、随時駆除作業を実施した。

- 事業実施場所: 常盤野町会内
- 事業実施期間: 平成24年11月1日～平成25年2月28日
- 参加者数: 70人
- 補助金確定額: 500,000円(事業費: 572,412円)

事業による効果

今回行った薬剤散布によって、冬期間家屋内に発生するカメムシの量は少なくなり、駆除作業の効果を得ることができた。

今後の活動展開

自主財源を確保し、駆除作業を継続していく。



町会役員が噴霧器の使用法や作業の要領を指導

事業目的

- ・市民が福祉や法律、成年後見・介護などの相談を1か所で受けられるよう、弁護士や精神科医、社会福祉士、介護支援専門員など多職種による「福祉と暮らしの相談会」を開催する。
- ・日常的に市民から相談を受ける専門職を対象とした研修会の開催や相談援助の実務的な方法を記載したハンドブックを作成・配布することで、相談援助者のスキルアップを図る。

事業内容

- ①専門職ネットワーク会議(12月、2月)  
 弁護士・司法書士・精神科医・社会福祉士・介護支援専門員などが参加し、市内の活動状況や情報交換、事例検討会等を行った。
- ②福祉と暮らしの相談会(3月20日)  
 専門職ネットワークのメンバーがペアとなって市民の相談を受けた。
- ③相談援助者のための研修会(3月13日)  
 日常的に市民から相談を受ける相談援助者が、具体的な援助の理論と方法を学ぶ研修会を行った。
- ④ハンドブック作成(100部)  
 相談援助の実務的な方法等を記載し、研修に参加した施設等に配付した。

- 事業実施場所: ホテルニューキャッスル、観光館ほか
- 事業実施期間: 平成24年12月26日～平成25年3月31日
- 参加者数: のべ110人
- 補助金確定額: 500,000円(事業費: 748,022円)

事業による効果

相談会では、ネットワーク化された法律職と福祉職と一緒に相談を受けることで、複合的な相談にも対応し、専門的な立場からアドバイスすることができた。また研修会では、相談援助者が普段の業務を振り返り、スキルアップが図られ、更に内容を深めた研修の要望があった。ハンドブックは利用する相談支援者がすぐに実践に応用できる内容とし、自らの業務をチェックできるようにした。

今後の活動展開

- ・権利擁護ネットワークは、参集範囲を拡大させて継続する。
- ・相談会は、事前受け付け方法やタイムスケジュール等の改善をしながら継続させていく。
- ・「相談援助者のための研修会」は、さらに内容を深めたものを検討する。
- ・「ハンドブック」は、内容を追加してさらに充実させる。



福祉と暮らしの相談会



相談援助者のための研修会

事業の目的

- ・日頃から森林に親しむ機会の少ない人たちに体験林業や森の中で自然観察をしてもらい、森を育てる喜びや森で遊ぶ楽しさを学んでもらう。
- ・市民の誇りである岩木山で活動することによって、郷土愛を深める。

事業内容

①体験林業

弘前城築城400年祭記念植樹をした森の手入れ(木の周りの草・芝刈り)を行った。

②観察会

森林インストラクターによる森林内の観察と里山の観察を行い、森林浴を楽しみながら森の役割や草木の名の由来を学んだ。

■事業実施場所: 東岩木山国有林(大森地区)ほか

■事業実施期間: 平成24年5月26日～平成24年7月22日

■参加者数: 52人

■補助金確定額: 296, 000円(事業費: 383, 077円)

事業による効果

普段森林に入る機会の少ない子どもから高齢者まで幅広い年齢層の人に林業と自然を体験してもらうことができた。

森林浴とその森の観察を行うことで、参加者が心身のリフレッシュをし、自然や環境に関心を持つきっかけとなった。

今後の活動展開

体験林業の場は、今後も市民が誰でも参加できる森林整備の拠点とし、森を育てる楽しさや森の大切さを学ぶ場とし、下刈やつる切りなどを行い樹木を育てていく。

また、地元を離れた人に里山の大切さを知ってもらえるよう、帰郷した際に参加できるような企画や体制をつくる。



体験林業（下草刈）



森林インストラクターによる森林・里山の観察



事業の目的

登山やトレッキングなどを楽しむ人々でにぎわう夏から一転し、積雪が市街地よりも多い冬期間は岩木山麓を訪れる市民や観光客が激減してしまい、地域住民も除雪に追われる。そのため、地域住民も明るくなるような冬の岩木山ならではの雪を楽しむ機会を、市民や観光客に提供する。

事業内容

◆岩木山南麓豪雪まつり(2月9日～11日) ※9日はプレ開催

「雪と遊ぼう」をテーマに、嶽温泉郷や青少年スポーツセンターなど会場を数か所に設け、冬の岩木山ならではのイベントを実施した。

約30mの距離をチューブのそりで滑る滑り台や、雪かきを楽しむ雪かき検定、馬そり体験などを実施し、多くの参加者が来場した。

- 事業実施場所: 岩木山南麓一帯
- 事業実施期間: 平成24年12月1日～平成25年2月25日
- 参加者数: 約2,000人
- 補助金確定額: 500,000円(事業費: 602,895円)

事業による効果

岩木山南麓にある施設団体が主体となって地域のみんが一致団結して事業を盛り上げようと取り組んだ。参加団体からの働きかけもあり、地域外の若者をはじめ、新たに参加協力する団体が増え、地域の活性化につながった。

今後の活動展開

- ・自助的に祭りを継続できるよう企画を考えていく。
- ・「雪を楽しもう」というシンプルなコンセプトで、経費を多くかけずに実施する。



約30mの滑り台



津軽ひろさき雪かき検定



馬そり体験



事業の目的

- ・弘前の農村女性起業家が持っている高い技術や農村ならではの文化を伝授し、後継者を育てる。
- ・市民一人ひとりが地産地消を推進し、県内外からの訪問者へ情報提供できる知識や津軽の味でおもてなしができるような調理技術を身に付ける機会を創出する。

事業内容

◆農村女性と市民との交流事業を開催(3月4日)

女性起業家から学ぶ体験学習として、参加者には「りんごの草木染」や「フライパンアップルケーキ作り」を体験してもらった。交流会では、体験学習で作ったアップルケーキと紅玉の皮から作った「アップルティー」を試食しながら参加者と主催者が交流することで、農村女性起業家の持つ技術に関心を持ち、伝承していこうという市民の輪を広げるきっかけづくりとなった。

■事業実施場所:文化センター

■事業実施期間:平成24年11月1日～平成25年3月30日

■参加者数:55人

■補助金確定額:200,000円(事業費:306,225円)

事業による効果

- ・農村女性起業家の持つ技術について、市民に知ってもらうきっかけをつくることができた。
- ・農村女性の技術や文化について関心を持ち、学びたい、応援していきたいという市民が多いことがわかった。
- ・弘前の魅力について情報を広げ、伝承していく市民の輪を広げていく可能性を見出すことができた。

今後の活動展開

実施してみたの反省点や参加者からの意見等を踏まえて、今後長く継続できる事業にできるよう、考えていく。25年度は、「食」に重点を置き、地域の食材を中心に田植え・お盆・正月などに作られる農家のまかない料理の実演講習会を、四季に合わせて開催する。



フライパンでできるタルト・タタン!



りんごの皮から抽出した液で草木染

事業の目的

地域住民に対して映像芸術や映画文化の普及と振興を図るとともに、街中ににぎわいを果たさせるため、中心市街地で映画の上映会を開催する。

事業内容

ボランティアスタッフや弘前大の学生とともにプログラムの選定、準備、当日の運営を行った。

◆2月16日(土)

県内では上映されることの少ないミニシアター系映画の上映会

◆3月16日(土)

県内出身若手監督を特集した上映会

上映後に3名の監督によるティーチインを併せて行うことによって、より上映作品を楽しんでもらうことができた。

また、今年度は、ティーチイン後に「シネマカフェサロン」と称し、来場者と監督が交流を図る場を設けた。

■事業実施場所: 弘前中三スペースアストロほか

■事業実施期間: 平成24年4月1日～平成25年3月31日

■参加者数: 408人

■補助金確定額: 500,000円(事業費: 918,393円)

事業による効果

スクリーン数の限られた弘前で、県内で上映されることの少ない作品や、地元出身の監督による作品といった多様な映画作品を鑑賞する機会を市民に提供することができた。

交通弱者もアクセスしやすい中心市街地に会場を設けたことにより、鑑賞者がまちに滞留し、賑やかさを創出する一助となった。

今後の活動展開

子どもたちや中高生に向けての映画上映会や、撮影に関するワークショップなど、市民が映画や映画館に親しみを持つような取組みを行っていく。

弘前を「映画の魅力を知る街」として地域住民に知ってもらうためにも、他団体との連携や他事業との協力を行う。



上映会場の様子



上映後には監督から作品についてのお話も聞くことができました。

## 事業の目的

弘前のまちづくりについて市民目線で考える。弘前の抱える課題について議論し、地域を再生し活性化させるためには今後どのようなまちづくり事業を行えばよいのかを研究する。

## 事業内容

「今の弘前に必要なものは何か」をメインテーマに、3回にわたって弘前のまちづくりについての意見交換会を開催した。毎回、高校生から年配まで約100名の市民が参加し、10名程度のグループに分かれて、「農業と商業」「観光とイベント」「生活とくらし」の3つのテーマについて議論し、地域の再生・活性化に必要な事業を提案し合った。

3回目の会議では、これまでに提案された意見を取り入れ、参加者一人ひとりが考える弘前のまちづくりのための事業計画案が発表された。

- 事業実施場所: ホテルニューキャッスル、文化センター
- 事業実施期間: 平成24年4月1日～平成24年11月29日
- 参加者数: 285人
- 補助金確定額: 259,000円(事業費: 358,420円)

## 事業による効果

議論を通じて、参加者がそれぞれ弘前を良くしていきたいと思っていることがわかった。

また、異なる年代の人たちがどのような考えを持っているのかを知る機会となり、市民のまちづくりへの意識を高めることができた。

## 今後の活動展開

- ・今後も市民が参加する会議を継続して開催していくとともに、市民から提案された案を具体的に事業化する取り組みを行う。
- ・提案を具体化するための組織を結成し、さまざまな団体や市民の方々と協働して、事業の実現へ向けての取り組みを行う。



まちづくりについて議論中



議論の成果を発表

# MEMO

A large, empty rectangular area with rounded corners, framed by a double-line border, intended for writing a memo. The area is completely blank, providing space for the user's notes.